

# 研修観の転換に伴う SPEC の挑戦



掲載内容です 滋賀県総合教育センター 探究型研修マスコットキャラクター 「きゅうたん」

研修実施者の挑戦と試行錯誤の軌跡  
探究型研修の参加者の気づきや学びの足跡  
研究に携わった研究員の探究記録

## 1. はじめに

教職員には、時代の変化に対応するため、教職生涯を通じて探究心をもちつつ自律的かつ継続的に学び続け、子ども一人一人の学びを最大限に引き出すという役割が求められています。本研究では、「『豊かな気づきを醸成する探究型研修』とはどのようなものか」について、研究メンバーと共に、試行錯誤を重ねながら考え続けてきました。まだまだ探究の途中であり、研究の成果を生かして更に追究を続けなければならないと考えています。したがって、本リーフレットは、「探究型研修」の“型”や“正解”を示すものではなく、当研究における、**探究型研修のデザインや実施に関わった研修実施者の気づきや学び**  
**探究型研修の参加者の気づきや学び**  
**研究に携わった研究員の探究的な学び**

を知ることをきっかけとして、「探究型研修」をテーマに、「**教職員の探究的な学び**」について探究するためのツールとしての役立てていただくために作成しました。

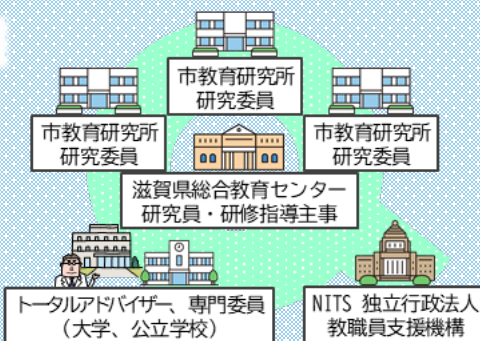
本研究の取組や成果が、研修実施者や参加者の区別なく、読者の皆様に、研修観の転換につながるような豊かな気づきを生み、教職員の学びについて探究する際の一助になると幸いです。

## 2. 滋賀県総合教育センターの探究型研修の取組について

滋賀県総合教育センターでは、参加者一人一人が研修テーマについて、自らの考えを深めながら、自己のあり方への気づきを生むなど、参加者が主体的に学ぶ姿を目指して研修づくりを行っています。研修では、講義を聴くことだけでなく、研修テーマに関する参加者の経験や考え方、価値観なども学習資源と捉え、実践の省察や他者との対話などを通じた学びを大切にしています。

## 3. 教育研究所連携研究について

本研究は、三つの市の教育研究所が市を越えて学び合いながら、協働的に探究型研修のデザインや実施、振り返りなどを行い、「新たな教師の学びの姿」の実現に向けた探究型研修のあり方について追究しました。



## 4. 本研究の考え方と活用したツールについて

本研究では、参加者一人一人が実践の省察や対話などを通して内省し、自らの教育実践の特徴や考えの枠組み、自己のあり方への気づき(豊かな気づき)を醸成して、実践の発展につなげる探究型研修づくりに取り組みました。

また、本研究における探究型研修をデザインするための共通言語である「**参加者を主語にした研修デザイン**」「**豊かな気づきを醸成する対話**」に基づき、二つのツールを活用しながら探究型研修のデザインや実施、振り返りを通して、自らの研修観の転換を図りました。

### 「探究型研修デザインシート」

探究型研修デザインシート		
研修名	研修日時	
研修実施の背景	研修目的 (目指す参加者の姿)	
研修目標 (参加者ほどの気づきを得るか)		
研修内容 (参加者は何について学ぶか)	研修過程・方法 (参加者どのように学ぶか)	
○研修の流れ		
時間	具体的な活動内容・留意点	目指す参加者の思考の過程
○準備するもの		
○研修の振り返り		

研修実施者が、研修目標の達成に向けて、目指す参加者の思考の過程を想像しながら、二つの共通言語に基づいて探究型研修をデザインするツール

### 「I-Historyシート」

私の探究(Inquiry)履歴	
I-Historyシート	
研修名 (テーマ)	研修の目標
所属	名前
研修テーマに関する自分自身の考え方やこれまでの実践(経験)	
学びの記録	

参加者の豊かな気づきの醸成を支援するために、研修テーマについて、参加者が省察したことや、対話・教材(学習材)などによる気づきや学びを可視化するツール

## 5. 本リーフレットの活用方法について

本リーフレットは、「教職員の探究的な学び」について、より効果的に思考を深めるために、以下の手順で御活用いただくことを推奨しています。

- Step1 「教職員研修」についての自分の経験や考え方を振り返る
- Step2 探究型研修の実施者や参加者の気づきや学び、研究員の探究記録を読んで、「教職員の探究的な学び」について考える

Step1 Let's start inquiring 「『教職員の探究的な学び』について考える」 「教職員研修」についてのあなたの経験や考え方を振り返り、下の「I-Historyシート」の左の欄にかいてみましょう

私の探究(Inquiry)履歴

# I-Historyシート

研修名	「教職員の探究的な学び」について考えよう
研修の目標	探究型研修の実施者や参加者の気づきや学び、研究員の探究記録を読んで、これまでの自分の研修観を捉え直したり、問い直したりする

所属	名前
----	----

## 教職員研修に関する自分自身の経験や考え方



あなたがこれまでに経験した教職員研修で印象に残っていることや、自分の教育実践や教職人生に影響を受けたこと、教職員研修についてのあなたのイメージや捉え方などを振り返ってみましょう  
\*図表やイラストなども用いて、自由にかいてみましょう

自分の経験や考え方を振り返った後は…

探究型研修の 実施者 や 参加者 の気づきや学び、研究員 の探究記録を読んでみましょう！

## 学びの記録



探究型研修の実施者や参加者の気づきや学び、研究員の探究記録を読んで、「教職員の探究的な学びとはどのようなものか」について、考えたことや気付いたことがあればかいてみましょう

あわせて読みたい！

研究論文やプロジェクト研究通信、各種シートなどのダウンロードはこちら

滋賀県総合教育センター 研究成果情報

検索

## 研究員の探究記録 ～「豊かな気づき」について考えてきたこと～

### 研究構想と霧(もや)のかかった「豊かな気づき」

令和7年2月、本研究の研究構想を立てるにあたり、はじめに考えたことは、「豊かな気づきとはどのようなものか」ということでした。今思えば、「参加者がどのような気づきを得る研修を目指したいのか」という問いと同義だったようにも思います。そのような問いを漠然ともちつつ、「NITSからの提案」(独立行政法人教職員支援機構)をはじめ、様々な文献を参考にしながら学びを進めました。それに伴い、「教職員研修とはどのような営みなのか」「大人の学び(成人学習)と子どもの学びはどのような違いがあるのか」「そもそも学びとは何なのか」といった問いに広げながら研究の方向性を模索しました。こうして創り上げた研究構想でしたが、改めて振り返ると「豊かな気づき」について何ら定義できていない研究構想だと気付きました。「豊かな気づき」の輪郭もまだまだ掴めていない、霧のかかった研究員の頭の中を象徴するような抽象度の高い内容でした。

令和7年4月、そんな研究構想を携え、研究の概要を説明するため、共に研究を進める県内の教育研究所を訪問しました。研究構想の内容は先述のとおりでしたので、研究委員をはじめ、同席された研究所の方々にとって、私たち研究員の説明は曖昧模糊として要領を得なかったのではないかと反省をしています。

### 「豊かな気づき」について共に考える学び合いのコミュニティの形成

令和7年5月、このような状況を踏まえ、第1回研究会では、研究委員の方々に探究型研修を体験していただきました。その後の協議の様子からは、本研究における探究型研修の考え方や研究の方向性について、多少なりと伝えることができたのではないかとこの感触が得られました。

令和7年6月の第2回研究会を皮切りに、各市で探究型研修を実施し、実践を通して学びを深めました。試行錯誤を重ねながら協働的に研修をデザインし、研修当日は研究メンバーが対話のファシリテーターとして参加しました。研修後には参加者の学びの姿を基に研修を振り返り、気づきや学びを共有しました。

### 参加者の振り返りと「豊かな気づき」

各市での実践後、注目していたものの一つに、参加者の振り返りがありました。本研究における探究型研修の参加者はどのようなことを綴っているのか。どのような気づきを得たのか。研修後すぐに参加者の振り返りを共有させていただきました。まるで通知表を見るときのような期待と不安が入り混じった気持ちの中で読んだ振り返りには、(本紙中面のとおりに)参加者の気づきや実践の発展に向けた展望、更なる探究につながる前向きな姿勢や悩みなど、参加者の心の中にある思いが多数見受けられました。このような参加者の思いとそれを生み出した研究委員の方々のおかげで、ぼんやりとしていた「豊かな気づき」の輪郭が浮かび上がってきた感覚が得られました。その結果、幾度となく改訂を繰り返しながらも、本研究における「豊かな気づき」の定義を明文化できるようになりました。

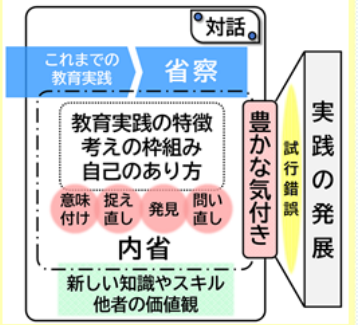
### 参加者の「声」と「豊かな気づき」

令和7年11月、「豊かな気づき」に対する解像度を更に上げるため、各市の探究型研修に参加した教職員の一部を対象に、聞き取り調査を行いました。有難いことに、たくさんの参加者が調査への協力の意向を示してくださり、今回はその中から8名の方にお話を伺いました。調査では、参加した探究型研修で、振り返りの記述にあるような気づきや、実践に生かせそうだという見通しや自信が生まれたきっかけは何だったのか、研修での気づきをどのように実践につなげているのかといったことを中心にお尋ねしました。研修実施者の手立てと結び付けられる内容や、振り返りの記述だけでは知り得なかった参加者を取り巻く状況や思考の深い部分に関すること、実施した探究型研修や教職員研修に対する率直な意見等、たくさんの「声」をいただきました。研修後の参加者の実践を踏まえながら、研修での気づきや学びの詳細を知ること、更に「豊かな気づき」への理解が深まったように感じました。余談ですが、長い方でおよそ5ヶ月前に実施した研修にもかかわらず、まるで昨日のこのように話される姿が印象的でした。

### 共に創り上げた「豊かな気づき」

令和7年12月、本研究における「豊かな気づき」と「豊かな気づきを醸成する探究型研修」のイメージをビジュアル化しました(右図)。実はこれまで避けていたことへの挑戦でした。避けていた理由として「『豊かな気づき』への理解が十分でなかった」「『省察』や『内省』などの様々なキーワードの関係性を示しながら、生まれる時機を予測できない豊かな気づきというものを表現することは難しいのではないか」ということがありました。後者は、今現在も少なからず同じ思いを抱えたままですが、「ビジュアル化できそうだな」という見通しや自信をもつことができたのは、参加者の学びの姿や振り返りの記述、聞き取り調査から、「豊かな気づき」への理解を深めることができたことが大きなきっかけでした。つまり、本研究における「豊かな気づき」は、参加者の気づきや学びによって創り上げられていると言い換えることができます。


豊かな気づきを醸成する探究型研修



### 自らの探究的な学びを綴ること

“型”や“正解”が定まっていないものについて考えることは、迷いや葛藤を伴いながら、次々に生まれる問いに向き合っていくという、とても気力が必要な営みでした。改めて、ここまでの歩みを振り返ってみたとき、探究型研修の実施者や参加者との出会いと学び合いによって、頭の中の霧を晴らしながら、自らの探究的な学びに向かう気力を満たして今に至っているように感じます。そして、それらのことを綴ることで、自分自身の探究的な学びをより実感できたように感じます。皆さんも御自身の探究的な学びを綴ってみてはいかがでしょうか。

ここを読んで気付いたことや考えたことを「I-Historyシート」にかいてみましょう

このページでは、本研究で実施した探究型研修の実施者や参加者の気付きや学びを紹介しています  
どの部分からでも読み進めることができますが、本研究は、のいる **研修観の振り返り** からスタートしました

は、探究型研修において研修実施者が取り組んだことを表しています

# 「新たな教師の学びの姿」の実現

は、探究型研修における参加者の活動や思考の過程を表しています

対話や問いかけなどの工夫と参加者の学びの姿の見取り

研修実施者が、参加者の学びの姿から、気付きや学びを見取り、手立ての有効性を検証する



- 自己開示の促進や問い返しなど対話の充実に向けて、心理的安全性を高めるために、何度もやり取りができるホームグループを設定すると効果的ではないか
- 研修目標や参加者の学びの状況を把握しているファシリテーターを設けることで、対話が充実するのではないか



- 「どんなことを大切にしたい実践なのか」といった問いかけや、「なぜそのような考えに至ったのか」といった問い返しをすることで、気付きが促されるのではないか
- 個人で考える機会の確保や考えたことを可視化することで、思考の広がりや深まりが生まれ、気付きが促されるのではないか

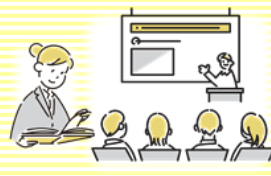
- 異なる校種の先生と対話することで、新しい発見があり学びになった
- 省察や講義などの後に対話の機会があることで、自分の思考を整理しながら学ぶことができた

## 他者との対話



## 新しく知る知識やスキル

- 研修講師とのやり取りがたくさんあり、研修後にも質問をして学びを深めることができた
- 講義を聴くだけでなく、自分の実践や力量と照らし合わせて考えることで、実践に生かせようという見通しがもてた



## 実践の省察

- 今までの実践を振り返ってみて、本当に自分の考え方が正しいのか、今一度考えを深める機会になった
- 自分が大切にしていることを言語化することで、自分の考え方への理解が深まった

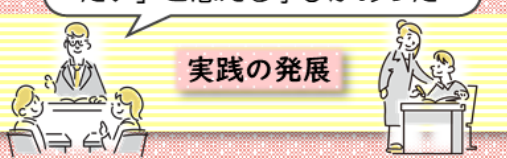


## 参加者の豊かな気付きの醸成を支援

私の探究(Inquiry)履歴	
<b>I-Historyシート</b>	
研修名 (テーマ) 研修の 目標	研修の 名前
研修テーマに関する自分自身の 考え方やこれまでの実践(経験)	
学びの履歴を可視化	

- 学びを生かして実践を発展させている自分の姿をイメージすることができた
- 「この考え方・手立てで実践したい」と思える学びがあった

## 実践の発展



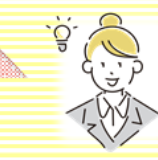
## 実践の意味付け 考え方の捉え直し

- 対話を通して自分の考えを深めたり、視野を広げたりすることで、自分の経験の意味に気付くことができた
- 自分の授業は指導者が準備をしすぎているのではないかと感じた。「きれいに」授業は流れるが、本当に子どもの力になっているのだろうか



## 自己のあり方の発見や問い直し

- 授業は「指導者が教えるもの」と考えるのではなく、子どもを信頼して授業をつくることも大切だと気付いた
- 自分の理想とする教育実践に向けて、自分自身も学び続けること、主体的に考えることを大切にしていきたい



対話での発言や学びの記録、振り返りの記述など、参加者の学びの姿を基に研修を振り返る

## 研修の省察

# 豊かな気付きの醸成 探究型研修 研修観の転換

探究型研修をデザインするための共通言語

- 「参加者を主語にした研修デザイン」
- 「豊かな気付きを醸成する対話」



- 他者の考え方や教材から気付きを得ていることが分かるような対話が見られた
- 省察の場面で自分の実践の特徴を捉えたり、対話や教材から自らの問いを広げたり深めたりしている記述が見られた
- 研修での学びを実践につなげることを急ぎすぎると、気付きを生みにくいのではないか

本研究はここから始まったよ

これまでの自分の研修観を振り返ったり、探究型研修のデザインに向けた共通理解を図る

## 研修観の振り返り

- 研修の内容や方法は研修講師に任せ、講義を中心とした研修になることが多かった
- 研修の企画や運営は担当者が単独で行うイメージがあり、他の担当者が実施する研修に参加したり参観したりする発想もなかった

## 探究型研修のデザインに向けた共通理解

- 参加者一人一人の学びの実態や、研修テーマに対する思いを把握したうえで、研修をデザインすることが大切ではないか
- 他者との対話が充実することで、参加者の教育観が揺さぶられ、考えが深まったり、新たな気付きが生まれたりするのではないか

共通言語を踏まえて、目指す参加者の思考の過程を想定しながら、省察や対話の設定、活用する教材(学習材)や問いかけの内容について検討する

## 探究型研修のデザイン



## 目指す参加者の姿

### 省察の設定

参加者一人一人が主体的に学ぶためには、研修の冒頭に、研修テーマにおける参加者の実践や考え方を省察する機会を設けるとよいのではないか

### 対話の設定

対話のグループを、教職経験や校種などが異なるように編成することで、多様な考え方や価値観に触れることができ、豊かな気付きを促すのではないか

### 問いかけの内容

参加者がこれまで「考えてもみなかったこと」や「考えようとしていなかったこと」について考えるきっかけになるような問いかけによって、新たな気付きが生まれるのではないか

### 活用する教材(学習材)

複数の教材(学習材)を提供し、参加者が選択できるようにすることで、主体的に学ぶ姿勢や対話における多様性が促されるのではないか

研修の振り返りを通して、改めて研修観を捉え直したり問い直したりして、次の研修に生かす

≪ 探究型研修デザインシート ≫			
研修名	研修日時		
研修実施の背景			
研修目的 (目指す参加者の姿)	研修目標 (参加者はどのような気付きを得るか)		
研修内容 (参加者は何について学ぶか)	研修過程・方法 (参加者はどのように学ぶか)		
○研修の流れ			
時間	内容	具体的な活動 内容・留意点	目指す参加者の 思考の過程
○準備するもの			
○研修の振り返り			

## 研修観の捉え直し・問い直し

- 複数回実施する研修を探究型研修にすることで、研修と実践における気付きや学びがつながり、教職員の継続的な学びを促すのではないか
- これまでの研修観にとらわれずに研修をデザインすることで、自由な発想が生まれ、新たな視点を得たりすることができた

## 研究会と各市の研修での実践を通した学び合いのコミュニティの形成

研修実施者が、協働的に探究型研修のデザインや実施、振り返りなどを行う学び合いのコミュニティを形成する

- 研修実施者同士で学び合いながら、協働して研修をデザインすることで、自信や安心感を得て研修を実施することができた
- 人が学び続けるためには、学び合う仲間が存在が大切だと感じた



## あなたは「教職員の探究的な学び」とはどのようなものだと考えますか

考えたことや気付いたことがあれば、下の「I-Historyシート」の右の欄にかいてみましょう

